

道徳教育研究部

I 研究主題

自己の生き方・人間としての生き方を深める道徳教育

II 主題設定の理由

今年度「学習指導要領道徳」にて「道徳の時間の目標」が改訂された。小学校では、従来の「道徳的価値の自覚」に、「及び自己の生き方についての考えを深め」という文言が加わった。中学校では、「人間としての生き方について」の前に、「それに基づいた」が加わった。今までの指導では、道徳的価値の自覚をさせることは重視して指導してきたが、この度の改訂により、自己の生き方、人間としての生き方についての考えを深める指導が、さらに強く求められていると考える。子どもの心だけに留めるのではなく、それが生きて働く「力」になるように迫っていくことが、これからの大きな課題である。

そこで、児童生徒が自己の生き方、人間としての生き方を考えられる道徳教育をどのように具現化していったらよいかを考え、今回の主題を設定した。

III 研究の方法及び内容

◎ 基本過程を学ぶ

1 資料分析

資料の中には、多様な道徳的価値が含まれている。そこで、本時がどのような道徳的価値をねらいとし、自己の生き方・人間としての生き方を深めていくかを明確にする。

2 発問の工夫

(1) 資料をとおして、ねらいとする道徳的価値の自覚に迫るための基本発問を3～4つ考える。(展開前段)

(2) 資料を離れ、ねらいとする道徳的価値に関わる今までの自分を振り返り、自己の生き方・人間としての生き方を深める発問を考える。(展開後段)

3 書く活動

展開後段で、ワークシートを活用し、今までの自分をしっかり振り返らせることで、これからの自己の生き方・人間としての生き方を深く考えさせる。

4 その他

(1) 資料提示の工夫（紙芝居等）

紙芝居を活用し、資料提示をする。さらに板書にも活用する。

(2) 指導体制の工夫

ゲストティーチャーに終末に話をしていただく。

(3) 心のノートの活用

導入や終末等で活用する。

IV 実践例

小学校第5学年 道徳学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（ ）第〇校時
男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名
授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 奉仕の心 4－（4）
資料名 「光る歩道」 出典 埼玉県道徳教育教材資料集 第2集
埼玉県教育委員会 （平成18年3月）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高学年の内容項目4－（4）は、「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする」となっている。これは、勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができることを目指す内容項目である。低学年の4－（2）「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」中学年の4－（2）「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。」から発展したものである。

人間は、社会のなかで人とかかわり合って存在し、自己実現を目指して日々努力をしている。この営みのなかで生きがいを見出すことができ、社会を支え合う充実感が得られることは人間の喜びである。働くことは、人が集団や社会と積極的に関わる手段である。働くことによって集団や社会に参加し、実践の喜びややり遂げた充実感が味わえると共に、自己の能力や適性等に気付き自己を高めようとする意欲もわいてくる。また、人は本来誰かの役に立ちたい、人に認められたいという欲求をもっている。自分のためのみに目を向けるのではなく、社会的な役割を担い、力を尽くすことがよりよく生きようとする意欲につながるものと考えられる。

そこで勤労が自分のためではなく、社会生活を支えているものであることを理解させ、社会への奉仕活動や公共のために役立つ活動に目を向け、身近なところから進んで取り組めるようにしていきたい。そしてそこから得られる喜びや充実感が公共心となって、公共のために役立つことをしようとする態度を育てていきたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童について

本学級の児童は明るく素直で、男女を問わず仲よくできている。日直、給食当番、掃除、委員会などのクラス・学校のための仕事も男女が協力して誠実に行うことができている。しかしその反面、決められた仕事だけをこなし、自分の担当でなかったらやらないという姿も見受けられる。自分の担当する掃除が終了すると、終了時間まで遊んでいる、教室にごみが落ちていても拾わない等、勤労・奉仕の心が育っているとは言いがたい。ただ、休み時間までメダカの水槽を掃除したり、「先生、何か手伝うことはありませんか」と聞いてきたりという児童もあり、その際は教師がみんなの前で感謝・称賛をするようにしている。

そこでこの時期に奉仕する喜びを知り、進んで自分たちの学校をきれいにしようとする態度を育てていきたいと考える。

(3) 資料について

主人公 ひろしの学校では、毎週金曜日の朝に5、6年生が学校を清掃する習慣がある。ある金曜日は、学校周りの歩道の草むしりをするようになった。6月だということとても暑い日だった。草むしりはなかなか終わらず、休み時間を使ってまでやることとなる。

本資料では、大きく三つの場面に分かれている。その場面ごとに、ひろしの心情を

追わせたい。一つ目は、同じクラスの知子から「しっかりやりなさいよ。」と言われ、むしゃくしゃしてしまうひろしの心情。二つ目は、仲良しの和夫から「ぼくたちがやらないと…しかたがないよね。」と言われたときのひろしの心情。三つ目は、草むしりが終わった後、歩道が光って見えたときのひろしの心情である。

ひろしの心情を考えさせ、働くことの大切さや奉仕する喜びを知ること、学校のために役立とうとする態度を育てるといふねらいにせまっていきたい。

3 ねらい

働くことの大切さを知り、すすんで奉仕しようとする態度を育てる。

4 学習指導過程

| 段階 | | 学習活動 | 予想される児童反応など | 指導上の留意点 (○) 評価 (☆) | 資料・時間 |
|----|-----------------------|--|---|---|---------------------------------|
| 導入 | 気づく | 1 奉仕について考える。 「ボランティア」とはどんなことでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> メダカの水槽をきれいに洗った。 山小まつりのとき、児童会役員として活動した。 給食当番が欠席のときに代わった。 | ○本時のねらいにかかわる生活経験を想起させ、学習への導入とする。 | 3分 |
| 展開 | とらえる 学習の課題の柱立て | 2 本時の指導について、あらすじ・限定される条件・登場人物とのかかわりなどを捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 板書を見ながら主人公を中心とした条件・事象を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○資料の題名について知らせる。 ○登場人物の名前カードを出し、登場人物を把握する。 ○カードを黒板に貼り、登場人物の関係やスタートの条件、状況を捉える。 主人公（ひろし） 条件 <ul style="list-style-type: none"> ・ ひろしの学校では毎週金曜日の朝、5、6年生が清掃をしている。 ・ ある金曜日は、学校周りの歩道の草むしりをすることになった。 | 登場人物の名前カード センテンスカード |
| | | 3 教師の範読を聞きながら、主人公の行動と気持ちを追う。（紙芝居） | <ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちを考えながら聞く。 一番心に残っている場面を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○主人公の気持ちを追わせることで、主人公への感情移入を図る。 ○初発の感想をもとに話題の柱立てをしていく。 ○話し合いの順序立てを考えて、感想で出た場面を貼り絵で表し、児童、担任共々に柱立てをしていく。 | 紙芝居 場面ごとのセンテンスカード 10分 |

| | | | | |
|--------------------------------|---|---|--|--|
| <p>深める</p> <p>課題の柱について話し合い</p> | <p>4 ひろしの気持ちを話し合う。</p> <p>(1)</p> <p>ひろしは和子から「早くやってよ」と言われた時どのように思っただしょう。</p> <p>(2) (中心発問)</p> <p>和夫から「しかたない」と言われたひろしは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>補助発問 「和夫はひろしと野球の約束をしていたのですよね」 「どうして『しかたない』のでしょうかね」</p> <p>(3)</p> <p>草むしりが終わった後、ひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>補助発問 「光る歩道とはどんな歩道なのでしょうかね」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくだってしっかりやっているよ ・うるさいな ・暑くてやる気が出ないんだ ・一緒に野球を楽しみにしていたじゃないか(赤) ・和夫までぼくに注意するのか(赤) ・和夫はどうしてそんなふうにか(半々) ・自分は学校のためと考えられていなかった(白) ・がんばってみようかな(白) ・学校のために働くとき持ちはいいな ・みんなの歩道がきれいになってうれしい ・これからも学校のために働きたい | <ul style="list-style-type: none"> ○むしゃくしゃするひろしの顔絵を掲示し、気持ちに共感させ、児童の多様な考えを引き出す。 ☆ひろしのいらいらする気持ちに共感することができたか。 ○ひろしが、和夫の意見に反発するか、感化されるか、帽子の色で表してみる。(始めは半々でもよい。) ○二つに分かれて意見を言い合えるようにする。(半々だった児童にも意見を聞き、どちらかに分かれるようにする。) ☆ひろしの揺れ動く気持ちを考え、それを伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりすることができたか。 ○題名「光る歩道」に立ち戻り、すがすがしい気持ちのひろしに共感させる。 ☆働くことの大切さを知って、すすんで奉仕しようという気持ちになっているひろしの気持ちに共感することができたか。 | <p>むしゃくしゃするひろしの顔絵</p> <p>帽子</p> <p>20分</p> |
| <p>見つめる</p> | <p>5 日常での奉仕を振り返る。</p> <p>あなたは、学校やクラスのために働いたことがありますか。また、これからどうしていきたいと思いませんか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・飼育委員会で進んでうさぎのえさやりをして気持ちよかった。 ・これからは、みんなの喜ぶようなことを自分からさがして仕事をしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○なるべく具体的な場面を思い出せるよう助言する。 ○机間指導をして、考えが深まっている児童に発表させる。 ☆奉仕について自分を振り返り、すすんで奉仕しようとする意欲が高まったか。 | <p>ワークシート</p> <p>10分</p> |
| <p>終末</p> | <p>6 校長先生のお話を聞く。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ○児童のがんばりを称賛し、道徳的実践に向けての意欲を高める。 | <p>2分</p> |

5 評価の観点

- ・働くことの大切さに気付き、すすんで奉仕していこうとする意欲を高めることができたか。(発言・ワークシート・観察)
- ・学校のために働くことの大切さや奉仕の喜びに気付ける発問の組み立てになっていたか。(発言・観察)

6 板書計画

| | | | |
|---|-------------|-------------|-------------|
| <p>光る歩道</p> <p>ひろし</p> <p>知子</p> <p>和夫</p> <p>・毎週金曜日の朝は清掃活動</p> <p>・暑い中 歩道の草むしり</p> <p>「しっかりとやらないよ」と言われた</p> <p>ときのひろしの気持ちは？</p> <p>・しっかりとやっているよ</p> <p>・うるさいな</p> <p>・暑くてやる気が出ない</p> <p>和夫から「しかたない」と言われた</p> <p>ときのひろしの気持ちは？</p> <p>・一緒に野球を楽しみにしていたじゃないか (赤)</p> <p>和夫まで注意するのか (赤)</p> <p>・どうしてそんなふうにするのか (半々)</p> <p>・自分は学校のためと考えていなかった (白)</p> <p>がんばってみようかな (白)</p> <p>草むしりが終わった後のひろしの</p> <p>気持ちは？</p> <p>・気持ちがいいな</p> <p>・みんなの歩道がきれいになってうれしい</p> <p>・これからも学校のために働きたい</p> <p>あなたは、学校やクラスのために働いたことがありますか。これからどうしたいと</p> <p>思いますか。</p> | <p>場面絵③</p> | <p>場面絵②</p> | <p>場面絵①</p> |
|---|-------------|-------------|-------------|

7 資料分析

| 場面 | 状況 | ひろしの思い |
|-----------------|---|--|
| 朝の草むしり | <ul style="list-style-type: none"> ・真夏のように暑い日の草むしり ・いつもうるさい知子に大声で「ぼんやりしてないでしっかりとやってよ。」と言われる | <ul style="list-style-type: none"> ・「ちゃんとやってるよ。」 ・うるさいな ・何となくむしゃくしゃした |
| 中休みの草むしり | <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしが和夫に「野球やりたかったね。」と言うと「しかたないよね。ぼくたちがやらなかったら歩道はきれいにならないもの。」と返される ・みんな真剣に草むしりをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に野球を楽しみにしていたじゃないか (赤帽子) ・和夫まで注意するのか (赤帽子) ・どうしてそんなふうにするのか (赤白帽子半々) ・自分は学校のためと考えていなかった (白帽子) ・がんばってみようかな (白帽子) |
| 草むしりの後、光って見えた歩道 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所のおばさんが「とても気持ちがいいわ。ご苦労さま。」と言ってくれた ・朝見たときとは大ちがいの、きれいに片づけられた歩道が光って見えた | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがいいな ・みんなの歩道がきれいになってうれしい ・これからも学校のために働きたい |

小学校第5学年 道徳学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 5年〇組 教室

学習者 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名

授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 郷土を見直す 4－(7)
資料名 「親から子へ、そして孫へと」 (出典：東京書籍 5年 道徳副読本)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高学年の内容項目4－(7)は、「郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」となっている。低学年の4－(5)「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。中学年の4－(5)「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」から発展したものである。高学年では、郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることを目指している。そのためには、郷土や我が国の発展に尽くし伝統と文化を育てた先人の努力を知り、感謝の心を育てることが大切である。そして、郷土や我が国のよさに気づき、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心構えを育てる必要がある。

本時では郷土を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てたい。

(2) 児童について

本学級は明るく素直な児童が多い。地域のスポーツ少年団や武道教室に所属する児童が多く、休日地域のお祭りや催し物に参加する児童も少なくない。3年生の時、総合的な学習の時間に山口について調べ、カルタを作ったり、4年生の時、地域を流れる柳瀬川について調べ、発表し合ったりした。したがって、地域についての関心や地域での経験が少ないわけではない。しかし、それらを築いてきた先人の努力に気づいている児童は少ないと思われる。そこで、自分の住んでいる郷土をよく知るとともに、先人の努力を認識して郷土を愛する気持ちを持てるようにしていきたい。

今年度の総合的な学習の時間では、「ふるさとの味山口食堂」という取り組みで、地域に伝わるうどん・ゆでまんじゅう作りを地域のお年寄りの方から教えていただく計画もある。今回実際にお話をうかがうことにより、郷土の伝統のよさや先人の努力に気づき感謝できるようにしたい。そして、今後「山口食堂」の取り組みに一層意欲が増すことを期待している。実際の体験を通して、郷土を愛する心をさらに育てていきたい。

(3) 資料について

主人公の健太は、地域に伝わる「北山神楽」を受け継ぐ人が減少していることを知り、保存会に入ったものの、練習に身が入らなかった。しかし、ライバルの出現や、祭りの山車に魅せられたことにより、自分に課せられた役割を自覚するようになった。健太の心情を通して、郷土文化を大切にする心、郷土を愛する心を育てたい。

この資料は、大きく分けて三つの場面から成る。それぞれの場面で①神楽を受け継ぐ人が少なくなり、あと数年でやめなければならないと知ったときの健太の心情、②厳しい練習についていけない健太の心情、③神楽を引き継ごうと思うようになったときの健太の心情に共感させ、最終的には自分の郷土の文化や伝統を大切にしていこうとする心情を育てていきたい。

(4) 学校教育目標・学校研究主題との関わり

本校の学校教育目標は、「すすんで学ぶ子」「仲よくする子」「明るく元気な子」であ

る。本時の授業では、郷土の伝統や先人の努力について進んで学び、郷土を愛する心情を育てることがねらいのため、特に「すすんで学ぶ子」につながる。

また、今年度の学校研究主題は「伝え合う力を高めながら道徳的価値に気づき、実践できる児童の育成」である。そこで、本時の授業では、まず一人一人の児童が心の中でたくさん葛藤し、その気持ちを素直に表現することを目標として指導したい。また、友達の考えを聞くことにより、自分の道徳的価値の理解を深め、お互いに高め合っていくことも大切な目標としていきたい。

さらに、本時の学習活動の内容は児童の生活の実態から入るが、質的に高められて再び児童の生活に生かされるよう、実践化へ向けての意欲づけも図りたい。

(5) 事前アンケート結果

Q. 1 山口地区（自分が住んでいる地域）のじまんでできることを言うことができますか。

言える 24名 言えない 9名

Q. 2 山口地区のじまんでできることは何だと思いますか。

自然 17名
トトロの森 3名
地域の人が優しい 4名
西武ドーム 3名
生き物（タヌキなど）2名
その他 6名

Q. 3 山口地区の行事に参加したことはありますか。

はい 29名 いいえ 4名

Q. 4 どんな行事に参加しましたか。


お祭り 27名（内 みこしを担いだ児童4名）
やきいも大会 8名
神社などの掃除 1名
その他 5名




3 ねらい

郷土の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。

4 展開

| 段階 | | 学習活動 | 予想される児童反応など | 指導上の留意点（○） 評価（☆） | 資料・ 時間 |
|----|-----|---|--|--|-----------|
| 導入 | 気づく | (1) 自分たちの住んでいる土地に、昔からあるものや伝えられてきたものを知っていますか。 【ところざわまつりを取り上げる。】 | <ul style="list-style-type: none"> 毎年見にいっているよ。 おはやしを見たことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいにかかわる生活経験を想起させ、学習への導入とする。 ○事前アンケートを参考にする。 ○ところざわまつりの動画を見せる。 | 3分 |

| | | | | | |
|--------|---------------|--|--|---|------------------------------|
| 展開 | とらえる | <p>(2) 本時の指導について、あらすじ・限定される条件・登場人物とのかかわりなどを捉える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 板書を見ながら主人公を中心とした条件・事象を捉える。 | <p>○資料の題名について知らせる。 ○登場人物の名前カードを出し、登場人物を把握する。 ○カードを黒板に貼り、登場人物の関係やスタートの条件、状況を捉える。 主人公（健太） 条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 健太の住む北山地区では、200年続く「北山神楽」が有名。 伝統行事を受けつぐ人がいなくなり、あと数年でやめなければならない。 | 登場人物の名前カード センテンスカード |
| 課題の柱立て | | <p>(3) 教師の範読を聞きながら、主人公の行動と気持ちを追う。（紙芝居）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちを考えながら聞く。 一番心に残っている場面を発表する。 | <p>○主人公の気持ちを追わせることで、主人公への感情移入を図る。 ○初発の感想をもとに話題の柱立てをしていく。</p> | 紙芝居場面ごとのセンテンスカード 7分 |
| 深める | 課題の柱についての話し合い | <p>(4) 健太の気持ちを話し合う。</p> <p>柱①</p> <div data-bbox="308 1122 600 1357" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>神楽を受け継ぐ人がいなくなり、あと数年でやめなければならないと知った健太は、どんな気持ちだったでしょうか。</p> </div> <p>柱②</p> <div data-bbox="308 1431 600 1626" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>厳しい練習についていけない健太はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <div data-bbox="308 1637 600 1854" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> | <ul style="list-style-type: none"> 残念だな。自慢できるものがなくなるよ。 一生懸命神楽をやる気はなかった。 お父さんも実もやっているから入るか。 土曜日のくるのがいやだな。（赤帽子） つらい思いをしてやることないよ。（赤帽子） いやだけど、やめるのも・・・（半々） 頑張ってみようかな（白帽子） <div data-bbox="624 1760 900 1955" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> | <p>○神楽がなくなるのは残念だが、保存会に入るときは熱心ではなかった健太の気持ちを考える。 ☆健太の気持ちに共感することができたか。</p> <p>○練習がいやになる健太に共感する場合は赤色、つらくても頑張ろうと思う健太に共感する場合は白色として、自分の気持ちを帽子の色で表してみる。（始めは半々でもよい。） ○二つに分かれて意見を言い合えるようにする。（半々だった児童にも意見を聞き、どちらかに分けられるようにする。） ☆健太の気持ちを考え、それを伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりすることができたか。</p> | 残念がる健太の顔絵 悩む健太の顔絵 赤白帽子 |

| | | | | | |
|----|------|---|--|--|-------------------------|
| | | 柱③（中心発問） 祭り前夜の健太はどのような気持ちで練習していたのでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昔の人は大変だったんだな。 ・自分もがんばりたい。 ・自分も地域のためになることをしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 豊の出現、豊の父の言葉、清三じいさんの言葉を考えるようにする。 ○ 自己の生き方につなげたい。 ☆ 郷土文化を大切に守り、伝えていこうとする気持ちをとらえることができたか。 | やる気に満ちた健太の顔絵 15分 |
| | 見つめる | (5) 自分の地域について考える。 あなたの地域で大切にされている文化や伝統はありますか。また、これからどうしていきたいと思いますか。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 先人への感謝の気持ちを育てる。 ○ 机間指導をして、考えが深まっている児童に発表させる。 ☆ 自分の地域の文化や伝統について考えているか。  | ワークシート 10分 |
| 終末 | まとめ | (6) 黒田さん（山口食堂でお世話になる方）のお話を聞く。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒田さんのお話を聞き、郷土を大切にしていこうという気持ちを育てる。 | 10分 |

5 評価の観点

- (1)郷土を大切に思う気持ちを育て、先人の努力に感謝し、郷土をさらに大切にしていこうとする意欲を高めることができたか。（発言・ワークシート・観察）
- (2)郷土を大切に思うことができ、先人の努力に感謝することができる発問の組み立てになっていたか。（発言・観察）

6 事後指導

本時のねらいに迫るような児童の言動を見かけたら、その場で称賛する。また、朝の会や帰りの会、学級通信などを通して他の児童にも紹介し、価値の自覚を深める。

7 板書計画

親から子へ、そして孫へと

200年続いてきた「北山神楽」があと数年でなくなる
健太 父 **健太の父** 指どころ者
 「いっしょにやろう」

実 兄 **正一**
 祖父 **清三じいさん** 指どころ者

神楽を受けつぐ人が少ない
 ・ 残念だな
 ・ 自分にできることはあるかな
 ・ お父さんも実もやっているから入ろうかな

きびしい練習 父「音が悪い」
 ・ 土曜日のくるのがいやだな（赤）
 ・ つらい思いをしてやることはない（赤）
 ・ いやだけど、やめるのも・・・（半々）
 ・ がんばってみようかな（白）

ニュースに出る！
祭り前夜の練習
「未来の人のもの」
 ・ 昔の人は大変だったんだな
 ・ 自分もがんばりたい
 ・ 自分も地域のためになることをしたい

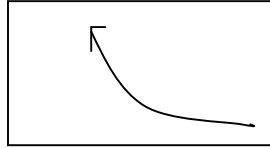
場面絵③

場面絵②

場面絵①

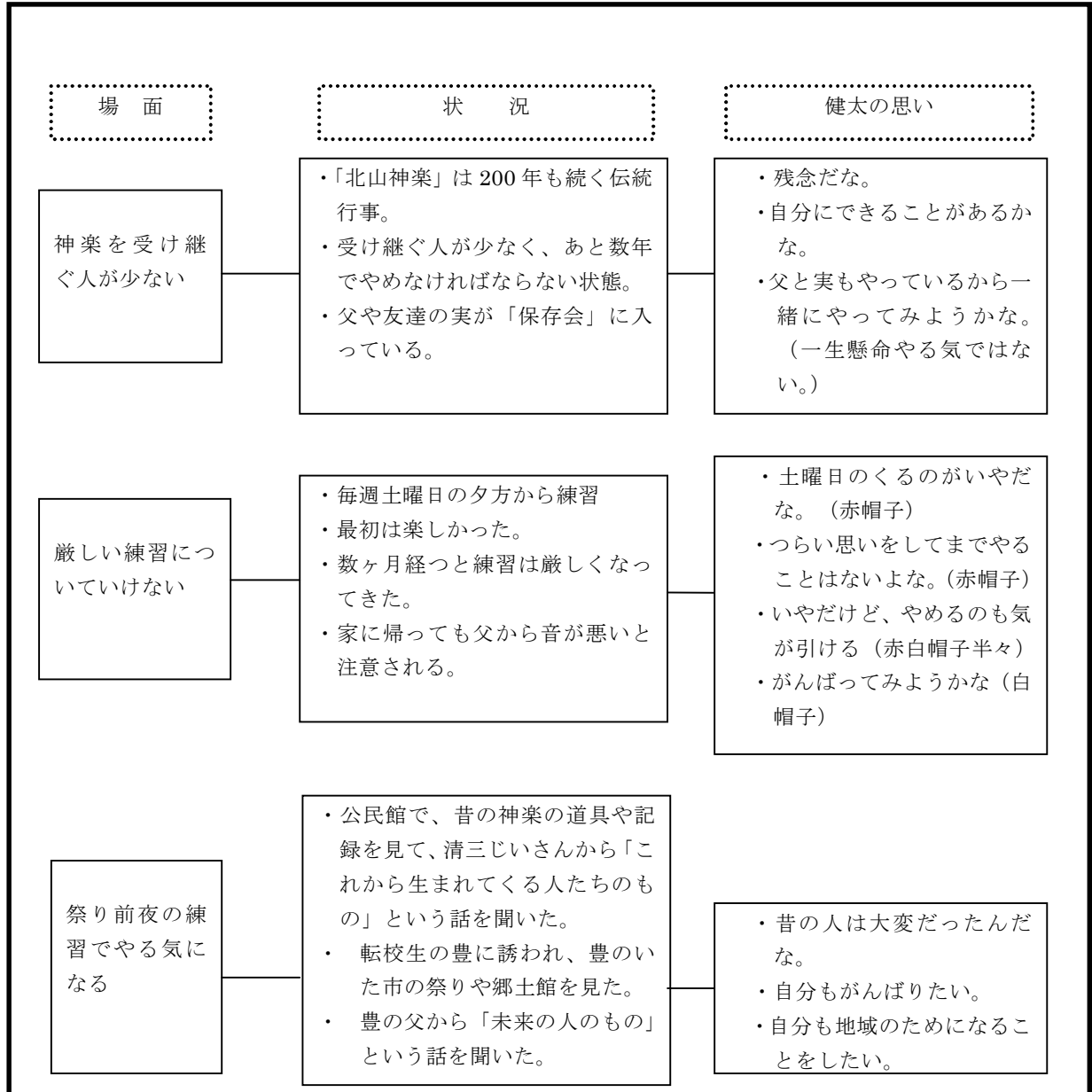
あなたの地域で大切にされている文化や伝統はありますか。また、これからどうしていきたいと思いますか。

※健太の心情の高ぶりがよくわかるように、



のような配置で板書する。

8 資料分析



小学校第5学年 道徳学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名
授業者 教諭 〇 〇 〇 〇
ゲストティーチャー 〇 〇 〇 〇

1 主題名 ほこれるふるさと 4- (7)

資料 よみがえれ「八幡湿地」 (自作資料)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年指導内容の4「主として集団と社会とのかかわりに関すること」の(7)は、「郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」であり、低学年の「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。」中学年の「郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」を土台にし、第5、6学年指導内容へと発展していく。

郷土とは、自分の生まれ育ったところであり、自分のいちばん身近な家庭生活の中で、自己形成を果たす場である。そして、自分を大きく包んでくれる自然もあり、さらに文化、伝統、歴史、風俗、習慣・・・、郷土はこよなく大きく子どもたちを包み込んでくれている場である。このような郷土のさまざまな影響を受けながら、子どもたちは日々成長している。地域の人々の思いや願いが脈々と受け継がれ、こよなく愛されているという実感が自信と誇りをもたせ、自分自身が生かし生かされているという自己肯定感を育んでいく。このように、自己形成に果たす役割は大きく、その存在は一生にわたって精神的な支えになっていくのである。

しかし、現代社会は、国際化、情報化、少子高齢化など激動の時代を迎え、さまざまなゆがみをかかえ、郷土本来のもつ意味合いや活気が失われてきているように思われる。

このような社会だからこそ、今何より大切なことは郷土にあるたくさんの自然や地域で生活している人々とふれ合ったり、郷土のすばらしさを再認識したりすることを通して郷土を活性化していくことが求められる。そして、人、自然、文化、伝統、歴史などのふれあいを通して、脈々と流れる地域の人々の思いや願いを実感したとき、それが自分自身への自信と誇りになっていくのではないだろうか。このことから、郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心情を養いたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は明るく活発である。1学期後半より友達関係もひろがり、放課後いろいろな家庭に訪問したり、いろいろな場所で遊んだり、行動範囲も広がっている。

本校は100周年を超える伝統ある学校でもあり、両親、祖父母が本校出身という児童も多い。地域の方も学校に対して協力的であり、地域の祭りなどの様々な行事も熱心に行われている。本年度学校重点事項に「ふるさと三ヶ島に自信と誇りの持てる子どもを育てる学校づくり」が掲げられている。そこで、子どもたちが郷土をどのように捉えているかを調査してみた。

- | | | | |
|---|---------------------------|--|----------------|
| 1 | 三ヶ島のじまんでできることを言うことができますか。 | 言える・・・・・・ 29名 | 言えない・・・・・・ 4名 |
| 2 | 三ヶ島のじまんでできることは何だと思えますか。 | 自然 茶畑 林 川 森 生き物がいっぱい 空気がきれい 外国の人形 一人一人が大切にされている トトロの森 | |
| 3 | 三ヶ島地区の行事に参加したことはありますか。 | はい・・・・・・ 29名 | いいえ・・・・・・ 4名 |
| 4 | どんな行事に参加しましたか。 | 中氷川神社の祭り・・・ 8名 | 八幡神社の祭り・・・ 14名 |
| | | 稲荷神社の祭り・・・ 7名 | 盆踊り・・・ 5名 |
| | | 七五三・・・ 3名 | 初詣・・・ 3名 |
| | | ごみひろい・・・ 3名 | 運動会・・・ 6名 |
| | | 廃品回収・・・ 1名 | |

この調査の中で、三ヶ島のじまんが言えると答えている児童は多く見られる。しかし、そのことがたくさん自然や地域で生活している人々とふれ合ったり関わったりする中でここまで成長してきたというところまではとらえられていない。さらに、伝統的なものや、地域の行事に積極的に関わろうとするところまでいっていないのが現状である。

そこで、行動範囲もひろがり、人との関わりの機会が多くなるこの時期に、脈々と流れる地域の人々の思いや願いを実感できるような体験をさせ、自分が地域の一員であるということの自覚を深めさせることは大切なことである。そして、地域の行事に積極的に関わろうとする心情まで深めていきたい。このことから、自分の郷土の文化や伝統を大切にし、郷土を愛する心情を養っていきたいと考える。

(3) 資料について

本資料は、昨年復元された「八幡湿地」のことを聞き取りによって作成した自作資料である。

本資料は、3つの場面で構成されている。

- ① 孫の信男に昔の「八幡湿地」のことを話している矢作
- ② 荒れた「八幡湿地」を元に戻しているときの苦労している様子
- ③ 昔の生き物がもどり、稲から米もでき、「八幡湿地」が復元した様子

これら3つの場面を通して、矢作の郷土「八幡湿地」への思いを知り、自分の郷土を昔の美しさにもどし、そのよさを伝えていきたいという矢作の心情に充分共感させていきたい。そのことから自分のふるさとに愛着をもち、ふるさとの文化と伝統を大切にしながら積極的にかかわっていかうとする心情を養っていきたいと考える。

3 他教科との関わり


本校教育目標「みんなやさしく・輝いて・じょうぶな体・まじめな子」は、一人一人の子どもたちが目標を持ち、友達や教師と共に学びあい活動し、自分がかげがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感できることにより具現化されていくと考える。


そして、本題材「郷土愛」の内容は、特に地域のことを調べ、地域の方とふれあったりする中で地域のことに関心を持ち、地域の中で育てられているという実感を持たせることが重要である。そこで、総合的な学習「見たい知りたい三ヶ島の自然」の学習を通して、より一層地域のことに関心を持って調べさせ、様々な体験活動を取り入れていきたい。また、ゲストティーチャーなど地域の方との連携を深め、地域の方の思いや願いを実感させ、地域の文化、伝統を大切に、行事等に積極的に関わっていこうとする態度を育成していきたい。


4 ねらい

「八幡湿地」が復元するときの矢作の気持ちを考えることを通して、郷土を愛する心情を育てる。

5 展開

| 段階 | 学習活動・主な発問 | 予想される児童の反応 | 指導上の留意点(☆評価) | 資料 |
|----|---|---|--|--------|
| 導入 | 1 「八幡湿地」はどんなところですか。 | <ul style="list-style-type: none"> 虫がいっぱいいる。 稲が植えてあり、米ができる。 川があって魚もいる。 とかげがたくさんいて、土がいい。 | <ul style="list-style-type: none"> 「八幡湿地」に対するイメージを発表させ、自分たちのとらえた「八幡湿地」のよさを再認識させるようにする。 ☆「八幡湿地」のよさについて考え、資料への関心が高まったか。 | |
| 展開 | 2 資料の範読を聞く。 3 主人公の気持ちを中心に考え、話し合う。 (1)孫の信男に昔の「八幡湿地」のことを話している時の矢作の気持ちはどうだったろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 主人公 矢作 登場人物 孫の信男 幼なじみの義弘 条件、情況 昔の「八幡湿地」のよさを孫の信男に話し、荒れ果てた「八幡湿地」をもとに戻そうとする矢作 ○話題の整理と確認 ・お米がとれたところを見させたいのに残念だなあ。 ・いろいろな生き物を見させてあげたかったなあ。 ・ほたるをみたらびっく | <ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちや行動がとらえられるよう、補説を加えながら読む。  <ul style="list-style-type: none"> ・昔の「八幡湿地」とずいぶん様子が違うことに対する矢作のさびしさと孫の信男に昔の「八幡湿地」のよさを伝えたいと思い始めている矢作の心情に気付かせる。 ☆「八幡湿地」のよさを伝えた | 紙芝居カード |

| | | | | |
|----|---|---|---|--------|
| 展 | <p>(2)「こんなことをしても、またもとのように戻って無駄だよ。」と言われた時の矢作の気持ちはどうだったろうか。</p>  <p>(3)稲から米もでき、昔の八幡湿地がもどってきたのを見た時の矢作の気持ちはどうだったろうか。</p> <p>4 自己を見つめる</p> <p>(4)ふるさと「三ヶ島」を自慢できる場所にするために今までやってきたことはあるだろうか。また、これからやってみたいことはあるだろうかを考える。</p> | <p>りするだろうな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともにもどすために、がんばるぞ。 ・みんなを説得するために、歯をくいしばってがんばるぞ。 ・ああ、こんな大変だったのか。 ・やはり、もとのようにもどすのは難しいことなんだ。 ・こんなこと言わなければよかった。 ・みんなが喜んでいる顔がみられてうれしい。 ・苦勞したけれどやってよかった。 ・みんなの力で自慢できる八幡湿地にもどってきたぞ。 ・もう荒れた八幡湿地にもどさないぞ。 ・ごみひろいをして、神社をきれいにした。 ・八幡湿地に稲を植えにいった。 ・どんぐりを植えて木を増やすようにしている。 | <p>いと思い始めている矢作の心内を考えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のような「八幡湿地」を戻したいという気持ちと、なかなかその思いが理解してもらえない苦勞のなかで、矢作の気持ちの葛藤を捉えさせたい。また反対する村の人と矢作の、役割演技をやらせることで、矢作の気持ちに充分共感させていきたい。 ☆ 矢作が反対している人を説得している様子から、昔の八幡湿地にもどす大変さのために、揺れ動く心情をとらえることができたか。 ・苦勞してもやりとげ、昔の八幡湿地がもどってきたのを見た時の矢作の気持ちに充分共感させる。 ☆ 困難を乗り越えて「八幡湿地」が復元し、自慢できる「八幡湿地」が戻ってきた時の矢作のふるさとを愛する心に共感することができたか。 ・書く活動を取り入れ、自分のできそうなことをじっくり考えさせるためにワークシートに書かせる。 ☆ 三ヶ島に愛着をもち、よりよい三ヶ島を築いていこうとする意欲がもてたか。 | ワークシート |
| 終末 | <p>5 ゲストティーチャーの話聞く</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・「八幡湿地」の復元に中心になって活躍してくださっている石井さんに、ふるさとを大切に思い、これからもその思いを伝えていこうとする話を直接していただく。このことに | |

| | | | |
|--|--|---|---|
| | |  | <p>より、ふるさとに愛着をもち、積極的に関わっていかうとする実践意欲へと高めていきたい。</p> |
|--|--|---|---|

6 評価

(1) 児童サイドからの評価

- ・郷土の伝統を大切にしながら、郷土を愛する心情をもつことができたか。
(発表、観察、ワークシート)
- ・積極的に授業に参加し、矢作の気持ちを考えることができたか。
(発表、観察、聞き入る表情)
- ・主人公の心と重ね合わせながら考え、自分の心の中を見つめることができたか。
(発表、観察、ワークシート)

(2) 教師サイドからの評価

- ・児童の発表やつぶやきを大切にし、児童の思考を深めることができたか。
- ・教師の支援は適切であったか。
- ・ワークシートの活用は適切であったか。
- ・発問箇所は、ねらいを達成する上で適切であったか。

7 事前指導

- ・郷土に関するアンケートをとり、価値への関心を高めるようにする。
- ・日常の児童の様子を観察し、本時のねらいとする価値に関わる実態を把握しておく。
- ・朝の会、帰りの会、授業中などで、安心して自分の考えを発言できる学級の雰囲気作りをしておく。

8 事後指導

- ・道徳の時間の授業内容を学級便りや懇談会でも取り上げ、家庭での話題にしてもらえるよう働きかけていく。
- ・帰りの会等で引き続き郷土に愛着をもつ話をしたり、心のノートに記入したりして意欲づけを図る。
- ・郷土の文化や伝統を大切に、地域の行事に積極的に参加しようとする支援を続ける。

よみがえれ「八幡湿地」

「ああ、昔はよかったなあ。」

八幡神社におまいりにきた矢作はためいきをつきました。そこには荒れ果てた八幡湿地が広がっていました。いっしょにおまいりにきた孫の信男に、昔のことを話しはじめました。

「ここは春になると、田んぼにたくさんのかえるの卵がかえり、おたまじゃくしがいっぱいになったんだ。そこには、さんしょうやおや、げんごろうなどの水の生き物がいっぱいだった。そして、みんなで、田んぼを耕して稲を植えたんだ。

夏になると、たくさんのおたまじゃくしがかえるになって、『げろげろ、げろげろ』とかえるの合唱が聞こえてうるさいほどだった。なつあげはの幼虫もきれいなちょうになって、たくさん飛んでいた。とんぼの幼虫のぬけがらもたくさんあって、なつあげはといっしょになって踊っているようだった。春に植えた稲も真っ青にぐんぐん伸びて風にそよそよ揺れ、とてもきれいだった。夜になると、ほたるもでてきたんだよ。」

「へえっ。ほたるなんていたんだ。」

信男は目を丸くして言いました。

「そうだよ。そして、秋になると、真っ青な稲が黄色くなって頭をさげてきた。その後、みんなで稲刈りをした。暗くなるまで稲を刈ってその稲を干したんだ。たくさん稲を干した様子もとてもきれいだったなあ。その後、稲をお米にして、みんなで食べたんだ。炊きたてのお米はものすごくおいしかった。あの味はわすれられないよ。」

その話を聞いた孫の信男は、こんな何もない草だらけの所が、そんなきれいなところだったなんてびっくりしました。

「それが、田んぼを続けてやってくれる人が一人二人と減って、ついに田んぼもやめてしまったんだ。そしたら、この有様だ。こんな荒れ果ててしま

ってさびしいなあ。」

矢作はぼつりと言いました。

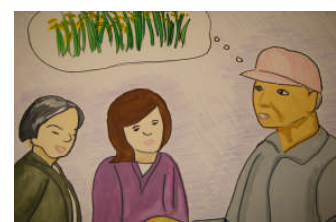
「おじいちゃん、ここはもう昔のようにはもどらないの？」

孫の信男は目をきらきら輝かせて言いました。

この言葉が、矢作の心に深く残りました。

それから何年か過ぎました。矢作は、なんとかみんなの力でこの八幡湿地がもとのようにもどらないかと考えるようになっていました。そんな時、となりの町で緑の博物館が作られるという話が持ち上がりました。それなら、この地区の人に協力してもらってこの八幡湿地もなんとかもとのような美しい湿地に戻らないかと考え始めました。そして、八幡湿地の近くの人々に呼びかけ、昔の八幡湿地のことを説明し、歩き回りました。

「こんなことをしても、またもとのように戻って無駄だよ。」と反対する人もいました。しかし、何度も何度も昔の八幡湿地のよかったことを説明しました。そして、一人、二人賛成してくれる人が増え、そのために使うお金をだしてくれる人も出てきまし



た。

そして、ついに八幡湿地をもとのようにもどす作業にとりかかれるようになりました。

まずは荒れ果てた田んぼの葦をぬくことでした。足をふみいれると、足のつけねまでどろの中に埋まってしまいました。そして、葦はそのどろの奥深くまで根をはってなかなか抜けません。葦1本をぬくことも簡単なことではありませんでした。幼なじみの義弘と力を合わせても、ほんの少ししかぬけません。

「もう、今日はこのぐらいでやめておこう。」

二人はためいきをつきました。まわりはすっかり暗くなっていました。でも残っている葦は



まだたくさんありました。つかれて、二人は座り込んでしまいました。しかし、昔の八幡湿地にもどそうと思うとやめることはできません。二人は力をふりしぼって、また葦をぬきはじめました。次の日からは何人かの人を手伝ってくれるようになりました。そしてついにあのたくさんあった葦を全部ぬくことができたのです。

次もまた、問題がでてきました。稲を植えるのには、泥が深すぎるのです。矢作たちは一生懸命考えました。そして考えついたのが、深いどろの中に板を敷くことでした。みんなで板をきり、少しずつ少しずつ作業が進んでいきました。そして苗が植えられるほどの深さにすることができた時は、みんな大喜びでした。



いよいよ苗植えです。子どもたちにも呼びかけ、たくさんの人で苗植えをしました。苗はすくすく伸び、田んぼには、さんしょうお、げんごろうと、昔いたたくさんのお水の生き物もどってきました。夏にはたくさんのかえるの合唱も聞こえるようになっていました。そして、夜になるときれいな光も、とびかうようになってきました。ついに、ほたるももどってきてくれたのです。田んぼでは、秋にはたくさんのお米をとることができました。そして、みんなでご飯にし、神社の祭りで食べました。小学校の給食にも出してもらいました。みんなのうれしそうな顔を見て、矢作と義弘はにっこりしました。



翌年は、田んぼの生き物はさらにたくさん増えました。そして、三ヶ島小学校の5年生が田植え、稲刈りと手伝ってくれるようになりました。田んぼのまわりに畑も作りました。昔の八幡湿地がよみがえってきました。

中学校第3学年 道徳学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇) 第〇校時
授業者 教諭 〇〇〇〇
生徒 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名

1 主題名 感謝 2-(6)

資料名 「『ありがとう』と言われる自分に、言える自分に」

(出典：埼玉県教育委員会 埼玉県道徳教育指導資料 中学校版 <平成21年1月>より)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

私たちは多くの人たちに温かい思いや支えによって生きている。協力し合ったり助け合ったりする気持ちを根底で支えているのは、お互いの感謝の心である。自分のことしか考えない人間が増え、互いの関係が希薄化した社会では、他者の温かい心に触れる機会も少なくなってしまう。人とかかわりの中で自分が体験したり、家庭で話題にならないと、自分が示すことができない感謝の気持ちは、今の無関心な社会では成立しづらいものである。現在の中学生は、他者への関心自体が薄いととも、感謝の気持ちを表す場面に気付かないことが多く見受けられる。このような実情から、人は誰でもかかわりあいの中で生きていることを自覚し、他者への理解に努める感謝の心をもって行動しようとする態度を育成したい。

(2) 生徒の実態について

中学生になると、互いに助け合い、協力しあって生きていく自覚が深まってくる。一方では幼さと社会風潮から自己中心的で、他人に感謝の心に関して、不十分な生徒も多い。しかし、中学生の心の本質にはやさしさや温かさを感じる素直さがあふれている。ふと心の奥底に感じる心のできる心の広さと他者を思いやる心のできる心の深さを育てたい。

3年〇組は熱心に物事に取り組むことが出来る生徒が多い反面、発表や表現活動においては消極的な生徒が多い。故に、少しずつではあるが、道徳の時間についてはワークシートに自分の考えを記入して表すことができるようになってきているが、それを発表する、話し合うなど深めるまでには至らない。女子は活発であるが、お互いがふれあい、友達に助けてもらったことなどに対し、感謝の気持ちをうまく表現できず戸惑っている場面も見られる。よって、人と人とのつながりが希薄であるように感じる。一方、男子は幼い行動をとることがある。また、リーダーとなる人物が不在なため、友達の温かい思いや支えに気付かず行動していることが多い。

そこでこの教材を通して、お互いの人格を尊重し合い、感謝の気持ちで接することや、その感謝の気持ちにこたえ、クラス一人一人への所属感や前向きに取り組んでいく姿勢を高めたい。

(3) 資料の活用について

本資料は、十年後の自分はどうなっているのだろうかという問いかけを通して、自分の体験を振り返り、感謝の気持ちを持って接することができるようになりたいという筆者の思いに迫るものである。

今回この資料を通して、人に対して自分がどういう言葉と態度で感謝の気持ちと心を持って接していかなくてはならないか考えを深めていきたい。感謝の心を育成することは、本校の学校教育目標である、「共に高め合う心豊かな生徒の育成」につながる。

3 本時のねらい

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それに応えようとする心情を養う。

4 事前の準備

(1) 本文

(2) ワークシート

(3) 心のノート P.66～67

5 本時の展開

| | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点(○)と評価(★) |
|----|---|--|---|
| 導入 | <p>1 心のノートP.66～67を使用し、「感謝」について考える。 ◎自分の経験してきた「感謝」を振り返ってみよう。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・小さいとき、電車・バスで席を譲ってくれた。 ・落ちていたものを拾ってくれた。 ・友達が怪我をしたとき手を貸してくれた。 ・友達がペンを貸してくれた。 ・悩んでいたときに相談にのってくれた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○今回のテーマに迫り、興味を持たせる。 ○心のノートに自分の経験を思いつくままに書かせる。 ○机間指導し、多くの生徒が発表できるようにそれぞれの価値を受けとめる。 ○それぞれの意見を受け入れ、自由に発表できるようにする。 ★本時の価値への意識づけができたか。 |
| 展開 | <p>2 資料「『ありがとう』と言われる自分に、言える自分に」を読んで、私の気持ちを中心に話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(1) 修学旅行の実行委員をはじめた「私」はどんな気持ちで参加したでしょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(2) 部活動に行きづらくなったとき、私はどんなことを考えていたのだろう。 ＜補助発問＞ 自分だったらどうするだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(3) 顧問の先生の話聞いて、涙が止まらなかった時、どんな思いを感じていたのだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(4) 「私を成長させ変えてくれたのは先生方や学校の仲間たちだ」と実感できたのは、私のどんな考えからだろうか。</p> </div> |  <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりやらなくちゃ。 ・部活にも専念したいのに。 ・なんとかなるという気持ちになっていた。 ・迷惑かけてしまっているな。 ・実行委員でつかれたな。もう部活に行きたくないな。 ・逃げようとしていた自分が恥ずかしくなった。 ・仲間がいて良かった。 ・自分って幸せなんだな。 ・仲間への感謝の気持ちを感じていた。 ・「ありがとう」 ・自分だけが苦しいという訳ではないということを知ったから。 ・自分の周りの人のおかげで、成長した自分があると分かったから。 ・自分を支えてくれている人にありがとうと心から言える人になろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教師が範読し、今回の価値についてのイメージをふくらませる。 ○「私」が行動をとった背景を知らせる。 ○最後の大会が近づき部活動に専念したいが、実行委員の仕事もしなければいけないといった悩みを共感的にとらえさせる。 ○ワークシートに取り組む時間に机間指導をし、取り上げたい考えについて意図的指名の手がかりをつかむ。 ★私の悩む気持ちを感じ取ることができたか。 ○責任持って取り組まなくても何とかするといういい加減な気持ちをとらえさせる。 ○補助発問で自分の本音について考え、「私」の気持ちと比べ、価値を深めたい。 ★私のいい加減な気持ちに気付くことができたか。 ○部活動の仲間の思いに気づき、友達のありがたさや優しさを実感している思いを掘り下げたい。 ★本時のねらいに迫ることができたか。 ○自分を見つめることを通して感謝の気持ちの大切さを理解し、自分の心の中にある感謝の気持ちを、相手の心に届 |
| 閉 | | | |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 展開 | 3 この授業を振り返り、 ・自分にとって感謝とはどういうものだろう。 ・いま一番感謝したい人は誰だろう。 について考えまとめる。 | ・両親が世話してくれたり、励ましてくれる。 ・友達が相談にのってくれたり、そばにいてくれる。 ・先輩が支えてくれた。 ・ありがとうと素直にいいたい。 ・感謝の気持ちをもって人と接していきたい。 | けようとする意欲を高めさせる。 ★本時のねらいとする価値について、自分と重ね合わせて主体的に自覚できたか。 |
| 終末 | 4 教師の説話を聞き、本時を振り返る。 | ・『『未来の私』への手紙』を読み、価値を深める。 | ○生徒ひとりひとりの感じ方を大切にす る。 |

6 評価の観点

- ・感謝の心をもって他の人と関わりを持つことの大切さを理解できたか。
- ・感謝の気持ちを持ち続け、それに答えようとする気持ちになることができたか。

7 事後指導

- (1) 集団活動の中で一人一人の存在を大切にし、感謝の気持ちをもって接して取り組めるよう支援していく。
- (2) 本時のねらいに迫るような生徒の言動を見かけたら、「朝の会」や「帰りの会」、「学級通信」などを通して、他の生徒にも紹介し、価値の自覚を深める。

8 板書計画

| | |
|--|---|
| <p>・ ありがとうと心から言える人に…</p> <p>・ 周りの人のおかげで成長した自分がある 知った。</p> <p>・ 自分だけが苦しい訳ではないことを 知った。</p> <p>・ 成長させてくれたと感じたのは、 どんな考えからだろうか？</p> <p>・ 仲間を信じるこの大切さを感じていた。</p> <p>・ 幸せなんだな。</p> <p>・ 仲間がいて良かった。</p> <p>・ 逃げようとしていた自分が恥ずかしくな った。</p> <p>涙が止まらなかった時の 私の思いは？</p> <p>・ 迷惑かけてしまっているな。</p> <p>・ 実行委員でつかれたな。</p> <p>もう部活に行きたくないな。</p> | <p>「ありがとう」と言われる自分に 言える自分に</p> <p>実行委員をはじめた「私」の 気持ちは？</p> <p>・ しつかりやらなくちゃ。</p> <p>・ 部活にも専念したいのに。</p> <p>部活動に行きづらくなった ときの私の考えは？</p> <p>・ なんとかなるといふ気持ちになっ ていた。</p> |
|--|---|

9 資料分析

| 場面 | 状況 | 私の思い |
|-------------------------|---|--|
| 部活動と 実行委員の 両立 | 部活動の最後の大会が近づく中、修学旅行で実行委員という役割を引き受けた。 実行委員会が忙しく、部活動に足が向かなくなる。 | 部活動に遅れるのは嫌だと思い、消極的な気持ちで取り組み始めた。 ベアを組む仲間に迷惑かけていると思いつつも、逃げ出したいと思っている。 |
| 実行委員や 部活動で 気付いたこと | 実行委員をやり遂げ充実感を感じている。自分が大切にしたいと思う存在は、自分の周りで支えてくれる人たちである。 | この充実感は、先生や身近な人たちのおかげだと感じている。 「ありがとう」と言われる、言える人間でいたい。 |

中学校第3学年 道徳学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
授業者 教諭 〇 〇 〇 〇
生徒 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名

1 主題名 思いやり 2-(2)

資料名 「カーテンの向こう」 (出典：教育出版 中学道徳3 「心つないで」 より)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2-(2)は、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を持つ」ことをねらいとしている。他の人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深め、これを身につけることは人間としてとても大切なことである。人間愛とは、人間を尊重する精神、生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤として、他の人に対する思いやりの心を通して具現化される。他者の思いやりにふれ、それを素直に受け止めたとき、自分が現在あるのは多くの人々に支えられてきたからであることを自覚するようになる。そこに他者から受けた思いやりに対する心のあり方がある。

また、思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心のあり方である。すなわち、他の人の立場を尊重しながら親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。したがって、思いやりの根底には、人間尊重の精神に基づく深い理解と共感がなければならない。このような両者の特性をしっかりと把握する必要がある。そして、これらを豊かに身につけ、温かみのある社会生活を送れるようにするため、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

生徒は心身共に発達し、特に中学3年生になると、自分の進路について真剣に考えるようになる。未来の可能性は大きいながらも、本当にその可能性を引き出せるのかどうか不安に思っていることが多い。そこでは、自分自身がどうあるべきか悩み、苦しみながら自分の生き方を見いだしている。自分自身をよく見つめているという見方もあるが、その反面では幼さと社会風潮から自己中心的で、他人のことにに関して、無関心な生徒も多い。しかし、中学生の持つ心の本質には、よりよく生きたいと思う素直さがあふれている。

〇年〇組は熱心に物事を取り組むことが出来る生徒が多く、自分なりの意見を持ち、道徳の時間においてはワークシートに自分の考えを記入して、まとめることができるようになってきている。その反面、自分の考えを发表或し、表現することについては消極的な部分もある。したがって、自分の見方や考え方を発表し、それを話し合っ深めるまでには至らない。また、女子が活動的であり、お互いの人間関係をよりよいものにしたいという行動が少しずつ見られるようになってきた。男子は真面目な性格が多く、物事に真剣に取り組む様子がよく見られる。時に幼い行動をするときがあり、自分の周りだけでなく広い視点を持って行動してほしい。人間関係においては、学年半ばにしてお互いのよさを認め合い、自分自身も大切にできる思いやりの心を持つことができるようになってきている。

そこで、この時期に相手の視点に立った言葉掛けなどを通し、温かい人間愛の精神を深め、さらに思いやりの心を育てていきたいと考えている。

(3) 資料の活用について

本資料は、イスラエルのとある病院の一室での出来事をあらわしている。窓際にベッドのあるヤコブが同室の仲間にカーテンの向こうの様子を話してくれる。ヤコブしかカーテンの向こうを見られないことに「私」はいらだちを感じていたが、実際は殺風景なものであることに私が気づくというものである。

今回この資料を通して、ヤコブの持つ思いやりの心に気づき、その心が人の心を温めることを知り、他の人々に対し思いやりの心を持つとしようとする意欲を育てたい。これは本校の学校教育目標である、「共に高めあう心豊かな生徒の育成」につながる。


3 本時のねらい

ヤコブのもつ思いやりの心に気づき、温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を持つ態度を育てる。

4 他の教育活動等との関連

| | |
|--------|---|
| 事前指導 | ・朝の会や帰りの会、学級活動において「思いやり」について考える機会を持つ。 |
| 道徳の時間 | 資料名「カーテンの向こう」 ・ヤコブの持つ思いやりの心に気づき、他の人々に対し思いやりの心を持つ態度を育てる。 |
| 事後指導 | ・日常生活の中で一人一人の存在を大切に、日々の活動の中でそのようなことが現れた行動を、「朝の会」や「帰りの会」、「学級通信」などを通して、他の生徒にも紹介し、価値の自覚を深める。 |
| 家庭との連携 | ・学級通信を通して、感想・身の回りの思いやりを紹介し、家庭での話題にしてもらう。 |

5 学習指導過程

| | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点(○)と評価(★) |
|----|---|---|---|
| 導入 | 1 絵を見て自由に印象を言い合う。 ・これはどこの絵だろう。 | ・部屋 ・病院 | ○絵を見た印象を自由に発表する。 ○今回のテーマに迫り、興味を持たせる。 |
| 展開 | 2 資料「カーテンの向こう」の前半を読み、意見を交換し合う。 (1) 毎日病室にいるヤコブの気持ちについて考える。 ・病室にいるヤコブは、どんな気持ちで毎日を過ごしているのだろうか。 (2) ベッドを譲らないヤコブの気持ちを考える。 ・なぜヤコブは窓際のベッドを譲らないのだろうか。 |  ・ただ時間が過ぎるのをじっと待っている。 ・何の楽しみもない。 ・変化のない毎日がつらい。 ・ただ死を待っている。 | ○黒板に登場人物や状況などを示す。 ○教師が範読し、今回の価値についてのイメージをふくらませる。 ○病室の状況を把握させる。 ○ヤコブの話を読んだ人がどれだけ楽しんでいるか気づかせる。 ★患者たちのつらさを理解し、ヤコブの話を楽しみにしている気持ちに共感することができたか。 |
| 展開 | | ・外を見る権利を独り占めしたい。 ・他の患者たちをうらやましがらしたい。 ・自分の特権を渡したくない。 ・何か他に理由があるのかもしれない。 | ○いつもみんなに夢や期待を与えてくれるヤコブと、窓際を譲らないヤコブのギャップについて、疑問を持つように補助発問を行っていく。 ★ヤコブの頑なな態度に疑問を持つことができたか。 |

| | | | |
|---|---|--|---|
| 開 | <p>◎資料「カーテンの向こう」後半を読む。</p> <p>(3) カーテンの向こうを見たときの「私」の気持ちを考える。</p> <div data-bbox="293 383 604 501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・カーテンの向こうをのぞいたときの「私」の気持ちはどんなだっただろうか。</p> </div>  <p>(4) 外の様子を病室に伝えたヤコブの気持ちを考える。</p> <div data-bbox="293 808 604 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ヤコブは病室の人たちにとどのような気持ちで「外の様子」を考えて伝えていたのだろうか。</p> </div> <p>3 自己を見つめ振り返る。</p> <div data-bbox="293 1077 604 1234" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・本当のやさしさ、思いやりとはどういうものだろう。自分の経験を踏まえて書いてみよう。</p> </div> |  <ul style="list-style-type: none"> ・自分が思っていたものと違ってショック。 ・ヤコブなんか死ぬばいと思った自分に後悔した。 ・ヤコブは自分たちに希望を与えてくれていたのだと気付いた。 ・すまないことをしてしまった。 ・自分はなんて醜いのだろう。 ・病室の人たちに夢と希望を与えようとしていた。 ・ヤコブの持つ、優しい思いやりの気持ち。 ・病室のみんなに希望を持たせたかった。 <p>◎「本当のやさしさ、思いやり」について考えてまとめる。自分の経験があれば、それを踏まえて書く。</p> <p>◎机間指導をし、数名に発表してもらおう。</p> | <p>◎資料の後半部分を教師が範読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分がヤコブの立場になったとき、初めてわかるヤコブの気持ちを十分に考えさせる。 ○病人の様々な視線に耐えたヤコブの思いに目を向けさせる。 ○同じ意見でもできるだけ多くの生徒に発言させたい。 ○自分の考えを整理し、ヤコブの気持ちを受け止めさせる。 ★自分の持つ意見を伝えることができたか。 ★他の人の発言を聞き、自分の考えを深めて「思いやり」について考えることができたか。 <p>・自己を見つめる活動を通して、温かい人間愛の精神を深め、思いやりをもって接することの大切さを意識させる。</p> <p>★「カーテンの向こう」を通して、人間愛・思いやりについて自分の考えをまとめ、これからの思いやりをもって人と接していこうとする意欲が高まったか。</p> |
| | 終末 | <p>4 教師の話聞き、本時を振り返る。</p> | <p>◎教師の話聞く。</p> |

6 評価の観点

- ・ヤコブがベッドを譲らなかった理由を知ったとき、「わたし」はヤコブの気持ちをどのようにとらえたのか。
- ・「思いやり」とはどういうものなのか考えることができたか。

7 板書計画

| カーテンの向こう | |
|---|--|
| 場面絵 | |
| <p>病室にいるヤコブは、どんな気持ちで毎日を過ごしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時が過ぎるのを待っている ・何の楽しみもない ・変化のない毎日がつらい ・ただ死を待っている | <p>なぜヤコブは窓際のベッドを譲らないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外を見る権利を独り占めしたい ・他の患者をうらやましがらせたい ・自分の特権を渡したくない ・他に何か理由があるのかもしれない |
| <p>カーテンの向こうをのぞいたときの「わたし」の気持ちは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が思っていたのと違ってショック ・ヤコブなんか死ねばいいと思った自分に後悔 ・自分たちに希望を与えてくれたのだと気付いた ・すまないことになってしまった | <p>外の様子を伝えていたヤコブの気持ちは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病室に夢と希望を与えていた ・ヤコブの優しい思いやりの気持ち |
| <p>本当のやさしさ、思いやりとは？</p> | |

8 資料分析

| 場面 | キーワード | 人物の心の動き |
|--|-----------------------|--|
| 見舞いの客など、今までに一人もやってこない、重症患者ばかりの薄暗い病室。 | 窓がたった一つしかない | うつろな目 つらい毎日 時が過ぎるのをじっと待つ 何の楽しみもない |
| 外の様子を話してくれる、窓際のベッドにいる一番古い入院患者のヤコブ。 | 期待と夢 | 病室での唯一の楽しみ みんなの顔がほころぶ 暗い病室に期待と夢が訪れる |
| 治る見込みのない病気にかかっている「わたし」を含め、みんなが窓際のベッドに行きたがっている | ヤコブはがんとしてその場所を譲ろうとしない | ヤコブの話がせめてもの希望 みんなが外の様子を知りたいと思う わたしはヤコブが増たらしい |
| 死ぬ前に、一度外の様子を見たがるニコル | 無視するヤコブ | ヤコブは死ねばいいと心の中で願うわたし |
| 最後まで窓際のベッドを譲らずに息絶えたヤコブ。わたしは念願の窓際のベッドに移った。そこでわたしが見たものは…。 | 期待して外を見たら、冷たいレンガの壁 | どこかで笑っているわたし ニンマリ 期待に胸がうちふるえた |
| <p>すべてのことがわかったとき、わたしはどんな気持ちであっただろうか。 ヤコブはどんな気持ちで病室の人たちに「外の様子」を伝えていたのか。</p> | | |

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

(1) 資料分析

資料の中には、多様な道徳的価値が含まれている。そこで、本時がどのような道徳的価値をねらいとし、自己の生き方・人間としての生き方を深めていくかを明確にするために資料分析を行った。このことで、本時のねらいにより迫ることができるようになった。授業の中で、発問、切り返し発問を行うことで、軸がぶれることなく、ねらいにむかって授業を進めることができた。したがって、その時間で児童生徒に考えを深めてもらいたいことが焦点化され、道徳的価値の自覚を深め、さらに自己の生き方・人間としての生き方の自覚を深めることができるため、資料分析を十分に行いたい。

(2) 発問の工夫

道徳の時間が「多くの人の考えを聴くことで自分自身の考えを深める」ことができるよう、資料の読み取りにならないように発問の工夫を行った。

道徳の時間の基本過程は、展開前段の発問と（「共感」「葛藤」「覚醒」の三つになることが多い。）展開後段の自己を振り返る発問であり、これを授業に取り入れることが道徳的価値の自覚と自分の考えを深める重要な要素になる。

展開前段の「共感」では、資料の登場人物の考えに共感し、自分自身とのかかわりで考えテーマに迫るきっかけをつくる。「葛藤」では、多くの人の意見を聞くことで多様な考えがあることに気づき（他者理解）、またその多様な考えからその道徳的価値の実現が難しいことにも気づき（人間理解）、自分の考えと合わせて、道徳的価値の自覚を深めていた。授業を重ねるうちに、児童生徒が道徳的価値の自覚をさせるには、一人一人に葛藤させることが大切であるとわかったため、児童生徒が葛藤しやすい場面での発問を中心発問とした。そして、その思いを表現することによりさらに自己の生き方・人間としての生き方が深まると考えたため、自分の思いを表現しやすいよう赤白帽子・カード等での提示をさせた。すると、微妙な心の揺れ動きが明らかになり、まさに一人一人を葛藤させることができた。「覚醒」では、いろいろな考えに触れた結果、よりよい生き方を理解し（道徳的価値の理解）、実際に自分はどのように生きていくのか考え、研究の主題に迫ることができた。

展開後段では、ねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返る発問を工夫した。子ども一人一人がねらいとする道徳的価値にかかわる行為、考え方、感じ方はどうだったかを具体的に振り返らせることで、少しずつではあるが自己の生き方・人間としての生き方に迫ることができるようになった。

(3) 書く活動（ワークシートの工夫）

小学生は挙手が多く、自分の考えをありのままに発表することができるが、考えを深めるという点で課題が残る。一方、中学生は小学生より考えは深まるものの、挙手が少なくなり、自分の考えを発表するという点で課題が残る。このように両者での課題を解決するため、「書く活動」を積極的に取り入れた。特に展開後段における自己を振り返るところで発表をする前にワークシートにまとめることは、自分の考えを整理し、考え自体を深めることができ、自己の生き方、人間としての生き方に迫るのに効果的であった。

(4) その他

① 資料提示の工夫（紙芝居等）

紙芝居を活用し、資料を提示し、さらに板書でも掲示した。このことで視覚的にも捉えやすくなりより一層道徳的価値の自覚を深め自己の生き方、人間としての生き方を考えやすくなった。

② ゲストティーチャーの活用

道徳の時間は、担任が行うものである。そこにゲストティーチャーを招聘することで、道徳の時間を活性化することができる。担任とは違った人が道徳の時間に関わることは、児童生徒の考えの受けとめ方は大きくなり、より一層道徳的価値を深めるのには効果的であった。

③ 「心のノート」の活用

今回の実践例では授業の導入で用いたものを掲載しているが、今年度研究を行うに際し、様々な場面で使うことを試みた。

導入で使う場合は、その時間にどのようなことについて考えるのか、きっかけをつくることができるものになる。一方、授業のまとめで使う場合、その時間で自分がどのように考えるようになったのかを「心のノート」に書き表すことで、自分の心の変容を見つめ直すことができるようになった。したがって、積極的にノートを利用することは有効であった。

2 今後の課題

児童生徒が自己の生き方・人間としての生き方を考えられる道徳教育をどのように具現化していったらいいかを考え研究に取り組んできた。

基本過程でまず道徳的価値の理解を深めることを意識することにより、自分と違った多様な考えを知り、認めあうことができるようになってきた。さらに自己の生き方・人間としての生き方の自覚を深めていくにはより効果的な発問を検討していく必要性を感じた。

書く活動はなかなか書けない児童生徒のために、書き出しを事前に印刷しておいたり、ねらいにふさわしい挿絵を入れたりすることが大切だとわかった。◎○△等で自己を振り返る欄を設けると、さらに自己の生き方・人間としての生き方に迫れると考える。

指導体制の工夫として、ゲストティーチャーを招いての授業実践をしたが、ゲストティーチャー招聘にあたっては、事前に十分な打ち合わせが必要となる。内容がその時間のテーマに沿ったものとなるよう、授業者の軸がぶれないように心がけたい。

このような課題を踏まえ、要である道徳の時間の中で自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方・人間としての生き方についての考えを深めていく授業のあり方を今後も研究していきたい。